解説レポート｜機械・化学メーカー向け

機械・化学メーカー向け
見積業務のAI化 進め方レポート

個別受注の機械と、配合・荷姿で単価が変わる化学品。見積の性質の違いに合わせて、AIに任せる工程と人が判断する工程を整理しました

2026年11月版



株式会社AIworker

https://ai-worker.net/

調査概要

項目	内容
種類	解説レポート（公的な統計と、当社の支援の経験をもとに整理）
対象	産業機械メーカーと化学品メーカーの営業部門長、営業企画、営業技術や見積を担当する責任者
使った資料	経済産業省・総務省「2025年経済構造実態調査 製造業事業所調査」、日本銀行「企業物価指数（2026年9月速報）」、独立行政法人情報処理推進機構（IPA）「DX動向2026」
当社の検証	架空の機械メーカーと化学メーカーに届いた見積依頼、合わせて6件を、AIツールで処理した結果（2026年11月に当社で実行）
期間	統計は2024〜2026年の公表値。当社の支援の経験は2025〜2026年
発行	株式会社AIworker（2026年11月）

本レポートでいう見積業務とは、お客様や商社から見積の依頼を受けてから、原価を積み上げて見積額を決め、回答するまでの一連の仕事を指します。同じ製造業でも、1台ごとに仕様が違う設備を作る機械メーカーと、配合が決まった製品を荷姿と数量を変えて売る化学メーカーとでは、見積の作り方が大きく違います。そのため本レポートでは、表や節を分けて両方を扱いました。

01 3か月後、担当者の仕事はこう変わります

まず、どのように仕事が変わるのかを、架空の担当者の例で見てみましょう。搬送機と洗浄機を個別受注で作る機械メーカーで、営業技術を担当する中野さんは、月に15件ほどの見積を作っています。1件に2時間ほどかかるのは、お客様の仕様書を読み、似た過去案件をファイルサーバーで探し、部品と工数を足し引きしているからです。似た案件をすぐ思い出せるのは課内のベテラン1人で、その人の予定が空くのを待つこともあります。



時期	中野さんがしていること	周りで起きていること
1か月目	標準機種のコンベヤの見積を題材に決め、1件の時間を工程ごとに2週間測ります	営業課長が試す時間を約束し、情報システム部門と図面と原価の扱いを決めます
2か月目	AIに類似案件の候補と原価の下書きを作らせて確かめます。合わなかった工数の考え方を記録し、指示を直していきます	技術部が、AIの選んだ過去案件が妥当かを週に1回見ます
3か月目	同じ課の2名にも使ってもらいます。作業は下書きの確認と、お客様との仕様の打ち合わせが中心になり、1件1時間ほどになります	部長会で、導入の前と後の時間と、回答までの日数を報告します



見積の下書きづくりにかかる時間の例です。

空いた時間で、中野さんは現地で寸法を確かめたり、仕様を変えて予算に近づける案を考えたりできるようになります。なお、この例の人物と数字は説明のためのものであり、成果を約束するものではありません。実際の効果は、題材の作業時間を導入の前と後で測って確かめます。

02 実際に動かすと、こうなります

言葉で頼むだけでどこまで動くのかを確かめるために、当社で架空の機械メーカー「X機械（架空）」と化学メーカー「Y化学（架空）」を設定し、それぞれに届いた見積依頼3件をAIツール（Claude Code）に処理させました。社名、人名、品番、金額はすべて架空です。プログラムは書かずに、日本語で2回ずつ頼んでいます。

機械メーカー：仕様書と過去案件から原価を出す

機械メーカーには、ステンレスのコンベヤ（メール）、部品洗浄機（お客様のExcelの仕様書）、他社製の既設コンベヤの延長改造（電話のメモ）の3件を用意しました。あわせて、過去案件11件の仕様と実績原価、部材単価表、社内の見積の決まりも渡しています。部材単価表には、ステンレスのフレームが12月1日から1mあたり92,000円から99,000円に上がる改定を入れました。最初に頼んだのは、次の内容です。

> 「見積依頼」フォルダに、お客様から届いた見積依頼が3件あります。全部読んで、「過去案件一覧.xlsx」「部材単価表.xlsx」「見積の決まり.txt」をもとに、依頼ごとに見積額の下書きを作り、「見積下書き.xlsx」に保存してください。使った過去案件と原価の内訳も載せてください。

195秒で、3件の見積額の下書きができました。コンベヤは、前回の納入品（K-2507）を含む3件の過去案件を基準にして、原価3,242,025円、見積額4,330,000円です。3件とも納品が12月1日以降になるので、値上げ後の単価を使っていました。続けて、営業課長が記入する空欄の列と、お客様と技術部に確かめることの文面を頼むと、218秒で足されました。

No.	お客様	依頼内容	原価(円)	見積額 下書き(円)	回答する見積額(円) ※営業課長が記入	区分	使った過去案件
1	A食品（架空） 第二工場 生産技術課 小川様	ベルトコンベヤ 7.5m×450 SUS 水洗い対応 1台（土日据付）	3,242,025	4,330,000		正式見積の下書き	K-2507（前回納入品）, K-2502, K-2403
2	B精工（架空） 生産技術部	部品洗浄装置（脱脂洗浄＋乾燥）毎分6個以上 3.0×1.5m以内	10,740,000	14,320,000		正式見積の下書き	W-2508, W-2404, W-2512
3	A食品（架空） 第一工場 保全係 石井様	既設コンベヤ（他社製）2.5m延長＋制御盤改造（年末休み工事）	1,671,875	2,230,000		参考（技術部確認要）	R-2506, K-2507

AIが作ったExcelの一覧の一部です（データは架空）。一部の列だけを載せ、見やすさのために色を付け直しています。緑の列が営業課長の記入欄、赤は「参考」扱いの見積です。

AIが挙げた主な確認点は、次のとおりです。

依頼	AIが挙げた確認点
コンベヤ（メール）	1月末に稼働させるには、標準の工程では11月下旬までの受注が要ります。機長は現地合わせなので、1m変わると見積額が約33万円増減します。土日の据付費は、前回夜間の据付で費用が超えた実績から35万円と見込み、協力会社に確かめるよう書いています
洗浄機（Excel）	お客様の予算900万円に対し、原価だけで約1,074万円かかり、粗利をゼロにしても届きません。同じ能力の過去案件は設置に3.2m×1.6mが要ったので、今回の3.0m×1.5mに収まるかを技術部に確かめる必要があります
延長改造（電話メモ）	図面がなく現地も見ていないので、決まりどおり「参考」扱いにしました。年末の休みまで約7週間で、標準の工程は9週間なので、このままでは間に合いません

また、2回目の作業では、洗浄機の仕様書の希望納期が「2026年2月末」と、すでに過ぎた日付になっていることに気づき、お客様への確認の文面の1番目に入れていました。これは当社がデータを作るときに誤って入れたものです。

化学メーカー：配合、ロット、容器から単価を出す

化学メーカーには、脱脂洗浄剤の18L缶の継続購入（メール）、商社経由の防錆油のドラムと大型容器（Excel）、においの少ない品とPFAS（有機フッ素化合物の一群）を含まない証明の相談（FAXの文字起こし）の3件を用意しました。配合表、原料価格表、容器と運賃の表、製造量で変わる加工費の表、見積の決まりも渡しています。原料のうち、ナフサに連動するグリコールエーテルは12月1日納品分から1kgあたり380円から430円に上がる設定です。

134秒で、荷姿ごとの見積単価の下書きができました。18L缶は10,150円で、1kgあたり537.0円です。比重1.05を使って18Lを18.9kgに直し、40缶で756kgと計算していました。続けて、値上げを入れない単価と入れた単価を並べ、品質保証課と取引先への文面を頼むと、293秒で足されました。

依頼	取引先	品番	荷姿	基本案 値上げ前 (円/個) ※比較用	基本案 値上げ後 (円/個) ※決まり5で 適用	値上げ による差 (円/個)	kg単価 値上げ後 (円/kg)	回答する単価 (営業課長 記入) (円/個)	状態
01	C工業（架空）㈱ 購買課 森様	SC-200	18L缶	9,920	10,150	230	537.0		下書き（要承認）
02	D商事（架空）㈱（商社）化学品第二部	RP-30	200Lドラム	149,600	155,740	6,140	905.5		下書き（要承認・要確認）
02	D商事（架空）㈱（商社）化学品第二部	RP-30	IBC 1000L（返却式）	697,980	728,690	30,710	847.3		下書き（要承認）
03	E金属（架空）㈱	SC-210の低臭タイプ（該当品なし）	不明（試験用）	—	—	—	—	—（見積なし）	見積作成せず（品質保証課へ回付）

AIが作ったExcelの一覧の一部です（データは架空）。一部の列だけを載せ、見やすさのために色を付け直しています。18L缶は値上げを入れると230円上がります。

依頼	AIが挙げた確認点
洗浄剤の18L缶（メール）	1回の製造量756kgは最小製造ロットの2,000kgを下回り、試作扱いの加工費がかかります。数回分をまとめて作れば7,720円まで下がりますが、どちらにするかは課長と生産管理が決めます。6か月の固定単価は、営業部長の了承が要ります
防錆油（商社のExcel）	商社の手数料5%は、決まりどおり単価に含めず、その旨を伝える文面を作りました。ドラムを1回に何本納めるかが書かれていないため、月2本と仮に置いて計算しています
においの少ない品（FAX）	製品の一覧にない品なので配合の変更にあたり、PFASを含まない証明と合わせて品質保証課が判断します。営業からは単価を出さず、試す数量の「■0kg」も先方に確かめるとしています

一方で、そのまま使えない部分もあります。洗浄機の見積では、単価表にない配管などの部材を、過去案件の材料費から差し引いて125万円と置いていました。ドラムの月2本も、AIが仮に置いた数字です。どちらも、人が確かめてから使う必要があります。

つまり、AIが作るのは人が判断するための材料であり、数字と言い回しは人が確かめる必要があります。そのためAIは回答する金額を決めず、営業課長の記入欄も空けたままです。なお、これは架空のデータを使っ

た1回ずつの結果です。図面の画像をそのまま読ませることは今回試しておらず、実際の業務では書き方の幅も広がるので、題材を絞って確かめていきます。

03 機械・化学メーカーで、見積の負担が増えている理由

9.0%	2.9%減	13.3%	85.5%
製造業の出荷額のうち化学工業が占める割合（2024年）	生産用機械器具製造業の従業者数の前年比（2025年）	化学製品の企業物価の前年同月比の上昇（2026年9月速報）	DXを進める人材の量が足りないと答えた日本企業（2025年度）

出典：経済産業省・総務省「2025年経済構造実態調査 製造業事業所調査」、日本銀行「企業物価指数（2026年9月速報）」、IPA「DX動向2026」。詳しくは本文と出典の章をご覧ください。

機械も化学も、製造業の中で大きな位置を占めている

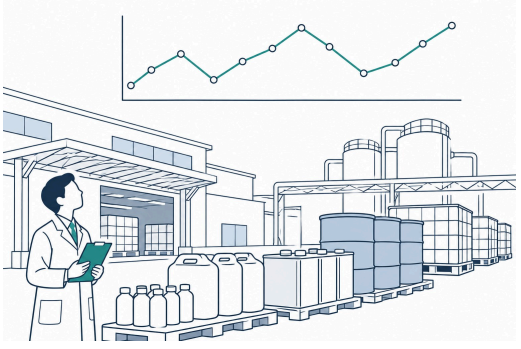
経済産業省と総務省の「2025年経済構造実態調査 製造業事業所調査」によると、2024年の化学工業の製造品出荷額等は34兆3856億円で、製造業全体の9.0%を占めました（第3表）。付加価値額は12兆6905億円で、製造業の中で2番目に大きく、構成比は10.8%です（第4表）。

機械の分野では、工場の設備や工作機械などを作る生産用機械器具製造業の製造品出荷額等が25兆2999億円で、ポンプなどのはん用機械器具製造業は13兆598億円でした（第3表）。

機械の分野では、作り手が減っている

一方で、生産用機械器具製造業の事業所数は2025年に2万2562事業所となり、前年から3.6%減りました（第1表）。従業者数も63万9002人で、前年から2.9%減っています（第2表）。個別受注の機械は、仕様を読み、似た案件を探し、工数を見積もる仕事に経験が要ります。人が減るほど、見積を任せられる人に仕事が集まりやすくなります。

化学品は、原料の値動きが見積を揺らしている



日本銀行の「企業物価指数（2026年9月速報）」では、国内の化学製品の物価が前年同月より13.3%上がりました。石油・石炭製品は11.5%の上昇です。化学品の原料には、ナフサなど石油から作るものが多くあります。原料の値段が動くと、見積の有効期限は短くなり、出したばかりの見積を出し直すことも増えます。

機械の材料も値上がりしています。同じ速報で、鉄鋼は3.2%、非鉄金属は40.2%上がりました。銅を使うモーターや配線、ステンレスのフレームを使う機械では、部材の単価表を直す回数が増えやすくなります。

仕組みを変える人も足りない

IPAの「DX動向2026」では、DXを進める人材の量が「やや不足」または「大幅に不足」と答えた企業が、2025年度で85.5%でした（54ページ 図表4-1）。AIを入れて使ううえでの課題でも、「専門人材が不足している」が50.1%で最も多くなっています（37ページ 図表3-16）。見積の担当者が忙しい会社ほど、仕事の進め方を見直す余力が残りにくい状況です。

04 機械と化学で、見積の性質はこう違う

同じ製造業でも、機械メーカーと化学メーカーとでは、見積で時間がかかるところが違います。下の表は、それぞれの現場でよく聞く負担です。

見るところ	機械メーカー（個別受注の設備）	化学メーカー（工業用の化学品）
依頼の中身	仕様書、図面、メールで、寸法、処理能力、材質、設置場所の条件が届く	品番、荷姿、数量、納期のほかに、SDSや成分の証明を求められる
原価の出し方	似た過去案件を探し、部品構成と設計・組立の工数を増減させる	配合比率×原料単価に、加工費、容器代、運賃を積み上げる
量の考え方	1台ごとに仕様が違う	1回の製造量（ロット）で加工費が変わり、容量（L）と重さ（kg）を比重で換算する
値動きの影響	ステンレスや銅など部材の値上げを、納期に合わせて入れる	ナフサに連動する原料の改定を、納品日に合わせて入れる
人の判断が要るところ	新しい機構、防爆、図面のない改造	配合の変更、成分の不使用の証明、SDSの内容

どちらも、書類を読み、探し、計算し、確かめる仕事が中心です。一方で、回答する見積額を決めること、仕様や配合を変えてよいかを決めることは、人の判断として残ります。

05 見積業務の流れと、AIに任せられる範囲

機械メーカーと化学メーカーの見積の流れを、それぞれ5つの工程に分けました。

機械メーカーの場合

工程	AIに任せられること	人が判断すること
1. 依頼の読み取り	仕様書やメールから寸法、能力、材質、納期、予算を抜き出す	依頼を受けるかどうか
2. 類似案件を探す	機種、材質、寸法が近い過去案件を挙げ、違いを並べる	どの案件を基準にするか
3. 原価の積み上げ	部材単価表から材料費を出し、工数を増減させて原価を計算する	新しい機構の工数（技術部）
4. 確認点の洗い出し	予算との差、図面の有無、据付の条件など、決まりと合わない点を挙げる	仕様を変えて予算に合わせるか
5. 見積書と問い合わせ	見積書と、お客様と技術部に確かめることの下書きを作る	回答する見積額と値引き

化学メーカーの場合

工程	AIに任せられること	人が判断すること
1. 依頼の読み取り	品番、荷姿、数量、期間、証明書の要否を抜き出す	依頼を受けるかどうか
2. 配合と原料単価	配合表と原料価格表から、改定の前と後の原料費を出す	改定をいつから見積に入れるか
3. ロット・容器・運賃	製造量で加工費を決め、比重で容量を重さに換え、容器代と運賃を足す	最小ロットを下回る製造の可否（生産管理）
4. 確認点の洗い出し	固定単価の希望、配合の変更、証明書の依頼など、決まりと合わない点を挙げる	配合と証明書の判断（品質保証課）
5. 見積書と問い合わせ	荷姿ごとの見積書と、取引先と品質保証課への確認の下書きを作る	回答する単価と固定単価の可否

AIに任せること
読む、探す、計算する、合わない点を挙げる

→

人が行うこと
見積額を決める、仕様と配合を決める、伝える

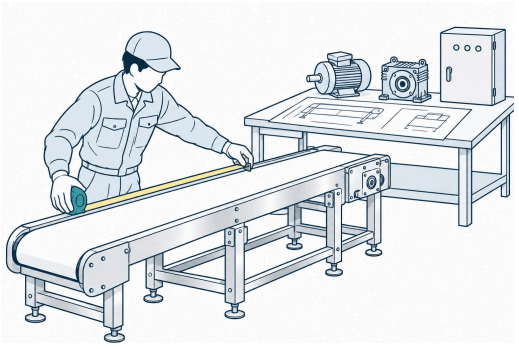
多くの場合、時間がかかっているのは2と3です。機械では似た案件を探す作業がベテランの記憶に頼りがちで、化学では原料の改定のたびに荷姿の数だけ計算をやり直すことになります。

06 進め方（3か月の例）

最初から全部の見積をAIに任せようとせずに、一つの課、一つの種類の見積から始め、成果を測ってから広げていくのが確実です。

時期	やること	終わったときの状態
1か月目	題材を1つ決める。今の作業時間を1件あたりの分数で測る。機械なら過去案件の実績原価と工数、化学なら配合表、原料価格表、容器と運賃の表を1か所に集める	どの工程に何分かかっているかが分かっている
2か月目	AIに下書きと確認点を作らせ、担当者が確かめる運用を週単位で試す。読み違えた仕様や単位、計算の決まりを記録して直す	担当者が日常の業務で使っている
3か月目	作業時間と回答までの日数を前と後で比べる。次に広げる見積の種類を決める	次に広げる題材と、必要な予算が決まっている

最初の題材には、機械メーカーなら過去に何度も作っている標準的な機種の見積を選ぶと進めやすくなります。似た案件が多く、工数の増減の考え方も決まっているからです。化学メーカーなら、定番品の荷姿違いの見積がよい出発点になります。配合を変えないので、計算の決まりだけで単価が出せるからです。



07 機械・化学メーカーで題材にしやすい業務

機械メーカーと化学メーカーで、見積の周りで題材になりやすい業務を挙げます。どれも、読む、探す、計算する時間が長い仕事です。

業務	AIに任せる部分
機械：標準機種の見積（コンベヤ、搬送機など）	仕様の読み取り、類似案件の検索、工数の増減の計算
機械：改造・更新の見積	既設設備の記録と図面の有無の確認、確かめることの一覧
機械：部材の値上げの反映	改定する部材を使う案件と、有効期限内の見積の洗い出し
化学：定番品の荷姿違いの単価表	比重での換算、ロットと容器と運賃を入れた単価の計算
化学：原料の改定の反映	改定する原料を使う品番と、影響する見積と取引先の洗い出し
化学：SDSや証明書の依頼の受付	依頼の整理と、品質保証課に回す事項の下書き

候補を点数で比べる

題材に迷ったときは、候補の業務を次の表で採点してみてください。合計が10点以上で、失敗の影響が1点でないものから始めるのがおすすめです。

見る点	3点	2点	1点
頻度	毎週ある	毎月ある	それより少ない
1回の時間	60分以上	20分以上	20分未満
手順	ほぼ決まっている	例外が少しある	毎回判断が違う
失敗の影響	社内の確認で気づける	課長や技術部の確認までに止められる	安全の仕様、防爆、成分の証明、SDSの記載に直結する

候補の業務	頻度	時間	手順	影響	合計
記入例：標準機種のコンベヤの見積	3	3	2	3	11
記入例：定番品の荷姿違いの単価表	3	2	3	3	11

防爆仕様の機械や、成分の証明のように影響の大きい仕事も、AIに確認点を挙げさせる使い方なら題材になります。ただし、判断そのものは技術部や品質保証課が行い、AIの答えをそのまま回答に使わないようにしてください。

08 自社の効果を1分で試算する

点数が高かった業務について、効果の大きさを試算してみてください。上の方に話すときの出発点になります。

項目	記入例	御社の数字
①1件の作業時間	90分	
②1人あたりの年間の件数	200件	
③同じ作業をしている人数	5名	
④減らせる割合（まずは控えめに）	4割	
⑤時給	4,000円	
減らせる時間（①×②×③×④）	年600時間	
金額に直すと（上の時間×⑤）	年240万円	

90分 × 200件 × 5名 × 4割 = **年600時間** × 4,000円 = **年240万円**

上の表の記入例を計算したものです。

記入例の数字は、計算の仕方を示すためのものです。④の割合は最初は仮の数字になるので、試す中で導入の前と後の時間を測り、実際の数字に置き換えていきます。なお、見積を早く返すことで受注が決まりやすくなる効果は、この式には入れていません。

09 人が判断するところ

AIに任せる範囲を広げるほど、人が何を決めるのかをはっきりさせておく必要があります。機械・化学メーカーでは、少なくとも次の3つは人が判断します。



回答する見積額
お客様との関係や競合の状況まで考えて決めます

仕様と配合
技術部と品質保証課が確かめます

例外の扱い
固定単価や小口ットを決めます

一つ目は、回答する見積額と値引きです。AIは原価と目標の粗利率から見積額を計算し、過去案件と並べることはできます。しかし、2社の比較で選ばれるための値決めは、営業の担当者と課長が行います。

二つ目は、仕様と配合の判断です。新しい機構や防爆の要否、図面のない既設設備の扱いは技術部が決めます。化学品の配合の変更、成分を含まないことの証明、SDSの内容は品質保証課が決めます。検証でも、AIはこうした依頼の見積額を「参考」や「保留」にとどめました。この扱いを最初の決まりに書いておくことが大切です。

三つ目は、例外への対応です。6か月の固定単価、最小製造ロットに満たない試作、休日の据付などは、運用を始める前に部署で扱いを決めておきます。

10 当社の支援の経験から

当社は、業務に合わせたAIの開発と、現場に入り込む伴走支援を行っています。見積業務では、国内大手産業機械メーカーで見積作成AIを開発しました。特注の産業機械と生産設備の見積に1件150分かかっていたものが、1件30分になり、80%削減しています。過去の確定案件150件で確かめたところ、見積金額の精度は94%（実績金額との差±5%以内）でした。開発の期間は、試しに作る段階を含めて約3か月です。

この経験から、うまくいく会社に共通するのは次の3点だと考えています。

1つ目は、最初に工程を分けて時間を測っていることです。感覚のままAIを入れても効果を測れず、次の予算を通しにくくなります。

2つ目は、過去の案件の記録を、見積額だけでなく実績原価と一緒に集めてから始めていることです。機械の見積では、出した金額より、実際にかかった工数のほうが次の見積の役に立ちます。化学品では、取引先ごとの容器や運賃の条件がメールや担当者の頭の中にあることが多く、これらを表にするところから一緒に進めるのが通例です。

3つ目として、技術部や品質保証課を最初から巻き込んでいることが挙げられます。仕様と配合はその部署が判断すると決めておくことで、営業も安心して使い始められます。

11 上の方に話すための材料

社内で話を進めるときに聞かれやすい質問と、答え方の例をまとめました。

相手	聞かれそうなこと	答え方の例
営業部長	値決めまでAIに任せるのか	回答する見積額と値引きは、これまでどおり課長が決めます。AIは原価の積み上げと過去案件との比較までを担います
技術部長	設計の判断までAIがするのか	新しい機構や防爆、図面のない改造は「参考」として技術部に回します。工数の判断は技術部が行います
品質保証課	配合や証明書を勝手に答えないか	配合の変更、成分の証明、SDSの内容は、AIが品質保証課への確認事項としてまとめるだけで、回答はしません
情報システム部門	図面や原価を社外に出して大丈夫か	入れてよいデータの範囲を最初に一緒に決め、社内ルールで認められた環境の中で進めます
営業担当者	自分の仕事が取られないか	減らすのは探す作業と計算で、お客様との仕様の打ち合わせや交渉は担当者の仕事として残ります

話を切り出すときには、次の項目を1枚にまとめると説明しやすくなります。この1枚はWordでも用意しています（https://ai-worker.net/wp-content/uploads/2026/11/aiworker-machinery-chemical-mitsumori-setsumei.docx）。

項目	書くこと
目的	原料や部材の値上がり、人手不足といった課題と、今回の取り組みのつながり
今の困りごと	対象の業務と、かかっている時間（試算の結果）
試したいこと	対象の課と人数、題材、3か月の進め方、技術部と品質保証課の関わり方
いただきたいもの	担当者の業務時間、費用、情報システム部門の確認
3か月後の報告	導入の前と後の作業時間と回答までの日数、次に広げるかどうかの判断材料

12 今週やること3つ

半日かからずにできる3つです。

順	やること	分かること
1	候補を3つ書き出して、採点表で点数をつけます	始める業務
2	次の見積で、1件の時間を工程ごとに測ります	試算に入れる数字
3	実績原価や、容器と運賃の条件の置き場所を確かめます	材料がそろっているか

出典

資料	発行元・年	使った図表
2025年経済構造実態調査 製造業事業所調査 結果の概要	経済産業省・総務省（2026年）	産業中分類別の第1表 事業所数（1ページ）、第2表 従業者数（3ページ）、第3表 製造品出荷額等（5ページ）、第4表 付加価値額（7ページ）
企業物価指数（2026年9月速報）	日本銀行調査統計局（2026年10月13日）	国内企業物価指数の類別の表（3ページ）
DX動向2026	独立行政法人情報処理推進機構（IPA）（2026年）	図表3-16 AI導入・運用上の課題（37ページ）、図表4-1 DXを推進する人材の「量」の確保（54ページ）

検証は当社が2026年11月に架空のデータで実行した結果です。事例は社名を伏せています。

当社について

Alworker

株式会社Alworkerは、業務に合わせたAIの開発、法人向けAI研修、現場に入り込む伴走支援を行っています。見積業務では、見積AIの開発と、使い続けていただくための伴走を行っています。採点表や試算を埋めてみたものの進め方に迷う場合は、御社の題材と説明資料を30分で一緒に整理することも可能です。ご相談: https://ai-worker.net/contact/